



2019年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2019年4月24日

上場会社名 株式会社デファクトスタンダード 上場取引所 東
 コード番号 3545 URL http://www.defactostandard.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 尾嶋 崇遠
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長 (氏名) 丸尾 隆 TEL 03 (4405) 8177
 四半期報告書提出予定日 2019年5月8日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2019年9月期第2四半期の業績 (2018年10月1日～2019年3月31日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年9月期第2四半期	5,838	1.6	△98	△134.4	△85	△129.9	△60	△130.9
2018年9月期第2四半期	5,746	6.3	286	△4.8	286	△5.3	196	△5.5

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年9月期第2四半期	△6.65	—
2018年9月期第2四半期	21.79	21.40

(注) 1. 当社は2018年3月16日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。このため、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、当該株式分割が前事業年度の期首に行われたものと仮定して算定しております。

2. 2019年9月期第2四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2019年9月期第2四半期	4,194	3,513	83.8	384.96
2018年9月期	4,348	3,619	83.2	396.61

(参考) 自己資本 2019年9月期第2四半期 3,512百万円 2018年9月期 3,619百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年9月期	—	—	—	5.00	5.00
2019年9月期	—	—	—	—	—
2019年9月期 (予想)	—	—	—	—	—

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2. 2018年9月期の1株当たり配当金の内訳は、東京証券取引所市場第一部へ市場変更されたことに対する記念配当5円であります。

3. 2019年9月期の配当予想額は、未定であります。

3. 2019年9月期の業績予想 (2018年10月1日～2019年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,141	5.0	150	△64.6	173	△59.6	118	△59.7	13.00

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年9月期2Q	9,140,000株	2018年9月期	9,140,000株
② 期末自己株式数	2019年9月期2Q	15,016株	2018年9月期	15,016株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年9月期2Q	9,124,984株	2018年9月期2Q	9,021,244株

(注) 当社は2018年3月16日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。このため、発行済株式数（普通株式）は、当該株式分割が前事業年度の期首に行われたものと仮定して算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
第2四半期累計期間	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当期の経営成績

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、国内株価の調整などを背景に消費者マインドは弱含んでいるものの、堅調な所得環境を受けて個人消費は緩やかな持ち直しが進んでおります。

当社が属するリユース業界では、個人間取引でリユース品の売買を行う「フリマアプリ」の浸透などを背景に、市場全体としては広がりが見られます。一方でフリマアプリやシェアリングの流行による中古市場活況の中、ユーザーの選択肢が広がることで、サービスの選別がより厳しくなっていくことが見込まれます。

このような環境の下、当社はリユース・ブランド及びファッション商品等(バッグ、洋服、時計、アクセサリ、財布、その他)に特化した買取・販売を、「ネット専業リユース事業」及び「その他事業」として展開してまいりました。

買取面では、アクセサリ買取強化キャンペーンやリピーター施策等による訴求を行い、当第2四半期累計期間における買取申し込み件数は225,288件(前年同期比2.3%減)となったものの、買取金額は3,981,765千円(同29.6%増)となりました。

販売面では、商品単価の上昇等により売上総利益率は43.7%(前年同期比7.8ポイント減)となりました。今期のテーマである自社販路強化の取り組みといたしましては、ブランディア経済圏の機能拡充を目的として、2019年1月に、購入金額の一部を手数料として支払うことで、最大10日間自宅で試着することができる「試着サービス」を開始したほか、同3月にはブランディア公式アプリのデザインをリニューアルいたしました。「ブランディアポイント」「下取り」に今回の「試着サービス」等、今後も機能拡充をしていくことで、ユーザーの「買う」「売る」の循環促進とリピーター拡大を図ってまいります。

また、海外販路「eBay」におきましては、イーベイ・ジャパンより最優秀賞にあたる「セラー・オブ・ザ・イヤー」を初めて受賞いたしました。国内の各販路でも複数の受賞があり、今後も各チャネルユーザーの特性に合わせ、幅広い露出を行ってまいります。

さらに、2019年5月からは、ブランド品のサブスクリプション型シェアリングサービス「ブランディアレンタル」の開始を予定しております。これにより、従来の物販業態に新しくサービス業態を加えることで、当社事業全体の業態改革を進め、収益力の向上を目指してまいります。

費用面では、引き続き出品業務の在宅ワーク化を進め、業務人件費を削減する一方で、買取・販売両面でテレビCM等の広告宣伝を行いました。広告宣伝費の費用対効果が改善した結果、当第2四半期累計期間における広告宣伝費は846,535千円(前年同期比1.0%減)となりました。

当社は、中長期的な利益成長のために、自社販路の売上高比率を高めることが必要と考え、期初から戦略的投資を行ってまいりましたが、第1四半期の暖冬による冬物商材の販売不振及び自社販路の集客の遅れ等により、売上高の伸びに当初の見通しよりも時間を要したことを受け、売上高は5,838,037千円(前年同期比1.6%増)、営業損失は98,544千円(前年同期は営業利益286,683千円)、経常損失は85,673千円(前年同期は経常利益286,360千円)、四半期純損失は60,695千円(前年同期は四半期純利益196,580千円)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

① ネット専業リユース事業

ネット専業リユース事業については、引き続き広告宣伝の投下により買取商品が増加した結果、販売は増加したものの、売上総利益率の低下によりセグメント利益は減少し、外部顧客に対する当第2四半期累計期間の売上高は5,493,444千円(前年同期比1.2%増)、セグメント利益(売上総利益)は2,482,740千円(同14.2%減)となりました。

② その他事業

その他事業については、高価格帯のブランド品や貴金属の卸販売等が増加した結果、外部顧客に対する当第2四半期累計期間の売上高は344,593千円(同8.0%増)、セグメント利益(売上総利益)は67,557千円(同9.6%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(流動資産)

当第2四半期会計期間末の流動資産は、前事業年度末に比べて165,260千円減少し、3,744,944千円(前事業年度末比4.2%減)となりました。これは主に、現金及び預金が980,590千円減少したものの、商品が694,025千円増加したことによるものであります。

(固定資産)

当第2四半期会計期間末の固定資産は、前事業年度末に比べて11,232千円増加し、449,432千円(同2.6%増)となりました。これは主に、繰延税金資産が26,117千円増加したものの、有形及び無形固定資産の減価償却により14,776千円減少したことによるものであります。

(流動負債)

当第2四半期会計期間末の流動負債は、前事業年度末に比べて48,117千円減少し、548,044千円(同8.1%減)となりました。これは主に、未払法人税等が47,698千円減少したことによるものであります。

(固定負債)

当第2四半期会計期間末の固定負債は、前事業年度末に比べて409千円増加し、132,830千円(同0.3%増)となりました。これは資産除去債務が409千円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期会計期間末の純資産は、前事業年度末に比べて106,320千円減少し、3,513,501千円(同2.9%減)となりました。これは利益剰余金が106,320千円減少したことによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末の現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前事業年度末に比べて887,073千円減少し、1,108,027千円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間において営業活動により使用した資金は825,013千円(前年同期は92,613千円の使用)となりました。これは主に、たな卸資産の増加694,019千円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間の投資活動により使用した資金は16,835千円(前年同期は80,176千円の使用)となりました。これは有形固定資産の取得による支出16,835千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間の財務活動により使用した資金は45,503千円(前年同期は3,356千円の獲得)となりました。これは配当金の支払いによる支出45,503千円によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

第1四半期の暖冬による冬物商材の販売不振及び自社販路の集客の遅れ等により、売上高の伸びに当初の見通しよりも時間を要したことを受け、2018年11月5日に公表した業績予想を下記のとおり修正いたします。

下半期は、上半期に比して販売促進（広告宣伝費）に対する投資を抑制する方針とすることにより、収益性は改善される見込みであります。

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表（A） （2018年11月5日）	13,067	431	443	306	33.63
今回修正予想（B）	12,141	150	173	118	13.00
増減額（B－A）	△925	△280	△270	△188	
増減率（％）	△7.1	△65.1	△60.9	△61.4	
（ご参考）前期実績 （2018年9月期）	11,568	423	429	294	32.54

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年9月30日)	当第2四半期会計期間 (2019年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,964,254	983,663
売掛金	276,880	313,019
商品	1,534,340	2,228,365
貯蔵品	4,308	4,303
その他	130,420	215,592
流動資産合計	3,910,204	3,744,944
固定資産		
有形固定資産	328,840	316,025
無形固定資産	16,383	14,421
投資その他の資産	92,977	118,985
固定資産合計	438,200	449,432
資産合計	4,348,405	4,194,376
負債の部		
流動負債		
買掛金	53,875	59,701
未払法人税等	61,512	13,813
その他	480,774	474,529
流動負債合計	596,162	548,044
固定負債		
資産除去債務	132,421	132,830
固定負債合計	132,421	132,830
負債合計	728,583	680,874
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,209,422	1,209,422
資本剰余金	1,119,672	1,119,672
利益剰余金	1,300,882	1,194,561
自己株式	△10,896	△10,896
株主資本合計	3,619,080	3,512,760
新株予約権	741	741
純資産合計	3,619,822	3,513,501
負債純資産合計	4,348,405	4,194,376

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2017年10月1日 至 2018年3月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)
売上高	5,746,394	5,838,037
売上原価	2,790,056	3,287,740
売上総利益	2,956,337	2,550,297
販売費及び一般管理費		
雑給	461,256	400,907
広告宣伝費	855,466	846,535
その他	1,352,931	1,401,398
販売費及び一般管理費合計	2,669,654	2,648,841
営業利益又は営業損失(△)	286,683	△98,544
営業外収益		
受取利息	11	8
為替差益	—	278
助成金収入	340	6,401
その他	2,968	6,181
営業外収益合計	3,320	12,870
営業外費用		
為替差損	3,643	—
その他	0	—
営業外費用合計	3,644	—
経常利益又は経常損失(△)	286,360	△85,673
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	286,360	△85,673
法人税、住民税及び事業税	81,368	1,139
法人税等調整額	8,410	△26,117
法人税等合計	89,779	△24,978
四半期純利益又は四半期純損失(△)	196,580	△60,695

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2017年10月1日 至 2018年3月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 (△)	286,360	△85,673
減価償却費	17,278	20,289
受取利息	△11	△8
為替差損益(△は益)	3,643	△278
支払手数料	0	—
助成金収入	△340	△6,401
売掛金の増減額(△は増加)	△40,333	△36,138
たな卸資産の増減額(△は増加)	△282,652	△694,019
買掛金の増減額(△は減少)	△2,694	5,826
未払金の増減額(△は減少)	55,698	31
その他の資産の増減額(△は増加)	△10,151	9,296
その他の負債の増減額(△は減少)	△36,944	△14,968
小計	△10,147	△802,044
利息の受取額	11	8
法人税等の支払額	△82,817	△29,379
助成金の受取額	340	6,401
営業活動によるキャッシュ・フロー	△92,613	△825,013
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△75,592	△16,835
無形固定資産の取得による支出	△150	—
敷金の差入による支出	△4,433	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△80,176	△16,835
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△63	—
自己株式の処分による収入	3,420	—
配当金の支払額	—	△45,503
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,356	△45,503
現金及び現金同等物に係る換算差額	△3,643	278
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△173,076	△887,073
現金及び現金同等物の期首残高	2,465,271	1,995,101
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,292,195	1,108,027

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期会計期間から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しております。なお、前第2四半期会計期間に係る貸借対照表については、当該会計基準等を遡って適用した後の表示となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間(自 2017年10月1日 至 2018年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期損益 計算書 計上額 (注)2
	ネット専業 リユース事業	その他事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	5,427,466	318,927	5,746,394	—	5,746,394
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	5,427,466	318,927	5,746,394	—	5,746,394
セグメント利益	2,894,724	61,613	2,956,337	△2,669,654	286,683

(注) 1. セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整しております。

II 当第2四半期累計期間(自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期損益 計算書 計上額 (注)2
	ネット専業 リユース事業	その他事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	5,493,444	344,593	5,838,037	—	5,838,037
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	5,493,444	344,593	5,838,037	—	5,838,037
セグメント利益	2,482,740	67,557	2,550,297	△2,648,841	△98,544

(注) 1. セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業損失と調整しております。